



訟
人
告
示

無代價呈上

非賣品

特 72

15



No 10257

301557-001-7

特72-15

訴訟人告示

木村正兵衛 / 編

M21.5

BBS-0001

特 72
15

凡ソ訴訟ノ要ハ唯自己ノ權利ヲ伸暢スルニ止マリ固ヨリ簡明確實ヲ主トシ單ニ憑據ト爲ス可キ事件ヲ揭ケ文飾冗長ナラザルニ注意ス可キハ勿論ノ處往々其訴訟ノ根幹ヲ舍テ枝葉ニ涉ルノ嫌ヒアルヲ以テ之ヲ矯正セシメ爲メ昨年來口頭審理ヲ主トスルノ趣意ヲ示シ即今稍其緒ニ就ト雖ヒ習慣ノ久シキ尙ホ未ダ訴狀或ハ答書中文飾冗長ナル者尠シトモ故今一層此目的ヲ擴張セント欲シ訴答書及審理ノ標準ヲ左ニ告示ス

明治十年十一月

第一條 控訴ヲ爲シタル者ハ始審裁判所ハ控訴人ノ費用ヲ以テ訴訟書類ヲ本院ニ送付スルヲ以テ其訴答書及証書寫ヲ添フルニ及バズ

但出訴ノ起頭豫納金二圓ヲ納ムベキ者トス

第二條 審判ノ期日ニ至リ突然延期ヲ請願シ一方ノ者ヲシテ空敷退廷セシムルコト多シ故ニ爾來其當日ニ至リ延期ヲ請願シタル者ハ其重要ノ理由アリト認メタル場合ニ非ザレハ願書ヲ却下シ出廷シタル對手人ノ申立ヲ聽キ欠席判決ヲ爲スベシ

本條延期ヲ開届ケ欠席裁判ヲ爲サハルモ其欠席ヨリ生シタル費用ハ欠席者ノ負擔トス

又書面ヲ却下スベキ場合ハ必ズ其理由ヲ朱書シ之ニ認印シテ下付ス可キ者トス

第三條 訴訟人審判ノ期日ニ至リ出廷スル能ハザル者ハ代理人又ハ相當代人ヲ出

延セシム可シ

第四條 審判ノ召喚狀ハ遅クモ五日巳前ニ之ヲ發ス可シ其審判期日訴訟人ニ於テ
差支アルモハ期日前必ズ對手人連印ヲ以テ其變更ヲ願出ツ可シ

但對手人ニ於テ其期日變更ヲ甘諾セザルモハ連印ヲ要セズ本院へ願出ツ可シ此
場合ニ於テ裁判官ハ事實延期ヲ必要ト認メ之ヲ聽屆ケタルモハ書記局ヨリ其旨
對手人へ通達ス可シ

第五條 訴訟人ニ於テ相當ノ陳述ヲ爲ス能ハザルモハ代理人ヲシテ代辨セシムルモハ
一ヲ勸告スト雖モ無資力ニシテ訴訟用印紙稅ヲ納ムル義務ヲ免カルベキ程ノ者ハ
裁判所ハ代理人ヲシテ手數料ナク代辨セシムルコトアル可シ

但代辨ヲ命スル順序ハ代理人ヨリ差出シタル人名順序ニ依ル者トス

第六條 訟廷審理順序ヲ等一ナラシムル爲メ其順序ヲ別紙ニ示ス

第七條 訴訟事件ノ審判期日ヲ定メ其時間ヲ測リ訴訟關係人ヲ呼出ス可シ

但シ召喚狀ニハ出頭セザル時ハ欠席ノ儘裁判スベキ旨ヲ記載スル者トス
事件審理中他ノ呼出時間ニ達スルモハ之ヲ止メ次ノ審判ニ取掛ル可シ

第八條 訴訟關係人ノ内審判ノ期日ニ至リ欠席スルモハ控訴人ハ被控訴人ノ申立ニ
ヨリ欠席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ被控訴人ナルモハ原裁判所ノ判決ノ憑據ト爲シ
タル辨論及立証ノ結果ニ付抵觸セザル控訴人ノ申立ハ被控訴人ノ自認シタル者ト

看做シ欠席判決ヲ爲スベキ者トス

但被控訴人附帶控訴ヲ爲シタル場合ハ控訴人欠席ノ手續ニ依ル者トス

第九條 判決ノ言渡ハ訴訟審問ノ終結シタル日ニ之ヲ爲シ又ハ其期日ニ定メ之ヲ
告達スベシ

第十條 他人ノ間ニ起リタル訴訟ノ結果ニ因リ法律上ノ利害ヲ受クベキ者ハ其利
害ヲ明示スルニ於テハ判決ニ至ル迄訴訟人ノ一方ヲ補助スル爲メ其訴訟ニ参加ス
ルコトヲ得

第十一條 補助參加人ハ双方ノ承諾ヲ得テ其補助スル本人ニ代リ訴訟ヲ擔當スル
ヲ得此場合ニ於テハ本人ハ自己ノ申立ヲ以テ訴訟ヲ脱スルコトヲ得可キ者トス

第十二條 訴訟人ノ一方敗訴ノ場合ニ於テハ第三者ニ對シ擔保若シハ賠償ノ請求
ヲ爲シ得ベキ者ト思料スルモ又ハ第三者ヨリ其請求ヲ受ク可キノ恐レアルモハ判
決ニ至ル迄第三者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得可キ者トス

第十三條 動不動産ノ賃借付託若シハ管理ノ契約又ハ其他ノ原因ニ因リ第三者ノ
名ヲ以テ物品ヲ保有スル者ハ被告ト爲リタル場合ニ於テ其答辨ヲ爲ス前原告ニ對

シ第三者ノ名ヲ以テ物品ヲ保有スルコトヲ主張シ其第三者ヲ指名シタルモハ本案ノ
審理ヲ拒ムヲ得ル者トス

此場合ニ於テ原告若シ被告ノ主張ヲ承諾セザルモハ裁判所ハ其指名セラレタル第
三者ヲ双方ト共ニ審理ノ爲メ呼出シ且同時ニ訴訟ノ現狀ヲ簡短ニ通知スベキ者ト
ス

訟廷審理順序左ノ如シ

裁判長曰ク明治十九年第九號甲某ヨリ乙某ニ對スル貸金催促事件ノ審判ニ取懸ル
裁判長曰ク控訴人ハ先ツ一定ノ申立ヲ爲ス可シ

控訴代理人曰ク私ハ不服ナル始審ノ裁判ヲ取消サレ明治十七年十月ニ貸附タル金
二百圓ニ明治十七年十月ヨリ以來百圓ニ付一圓二拾五錢ノ割ノ利息ヲ合セ總計二
百何拾圓ヲ被控訴人ヨリ返還スル様裁判ヲ受ケ度キヲ申立マス

裁判長曰ク被控訴人モ亦先ツ一定ノ申立ヲ爲ス可シ

被控訴代理人曰ク私ハ始審ノ裁判ヲ認可セラレ控訴人ノ訴ヲ却下相成度ヲ申立
マス

裁判長ハ控訴代理人ニ向テ曰ク事實ノ陳述ヲ爲ス可シ

控訴代理人曰ク本訴ノ貸金二百圓ノ内百圓ハ明治十七年十月已前被控訴人ニ對シ
品物ヲ數度ニ賣渡シ其代金ノ滞リアリシヲ明治十七年十月貸金ニ改メ百圓ハ其時
現金ニテ借用イタシ度旨相談アリタル故都合二百圓ノ貸付トイタシマシタ而シテ
際明治十八年一月限リ返附ノ約束タイタシマシタルニ其期限經過シテモ返金シマ

セン故始審ノ裁判所ニ出訴イタシマシタ然ルニ始審裁判所ニ於テハ何々ト裁判相
成タレモ何々ノ譯ニテ此裁判ニハ服シ難キ故控訴ニ及ビマシタ次第テ御座リマス
私ハ控訴人ヨリ遺シマシタ手紙ト何區何町何之誰ヲ以テ右私ガ主張スル事實ヲ證
據立テイヤウト思ヒマス

裁判長ハ被控訴人ニ向テ曰ク事實ノ陳述ヲ爲ス可シ

被控訴代理人曰ク控訴人が請求スル二百圓ノ金ハ借り受ケタルニ相違ナケレモ其
後ニ百五拾圓丈ケ返金シ残り五十圓ハ切捨勘辨ヲ受マシタ故今ハ控訴人ニ對シテ
少シモ義務ハ御座リマセヌ私ハ控訴人が百五十圓ヲ受取タル時ノ受取書ヲ以テ右
ノ事實ヲ證據立テイヤウト思ヒマス

裁判長ハ控訴人ニ向テ曰ク證據立ヲ爲ス可シ

控訴代理人曰ク私ハ百圓ノ賣掛金ヲ貸金ト爲シタルヲ何區何町何之誰ヲ證人ト
爲シ證據立ント思ヒマシタレモ今被控訴代理人ノ陳述ヲ聞ケバ二百圓ヲ借り受ケ
タルニ相違ナシト云フニ付最早此点ニ付テハ證據立ツルニ及ハヌト思ヒマス依
テ證人ノ召喚ハ願ヒマセヌ唯争ヒノアル所ハ百五十圓ノ返金ヲ受ケタル點ト切捨
勘辨ヲ爲シタリト云フ点トガ争ヒトナリマシタ故私ハ此手紙ヲ證トシ提出スレバ
充分ト思ヒマス(此時手紙ヲ差出ス)此手紙ハ控訴人が勸解出願セントスル文面ニ
今二週間計リ御待被下候ハ、必ス金策ノ上皆金御返濟可仕云々トアルヲ以テ私ガ

百五十圓ノ返金ヲ受ケザルコト及ビ切捨勘辨ヲ爲サザルコトヲ證據立マヌ

裁判長ハ被控訴人ニ向テ曰ク證據立チ爲ス可シ

被控訴人曰ク私ハ此受取書ヲ證據トイダシマス(此時受取書ヲ出ス)此受取書

ニ明治十八年三月三十日百五十圓正ニ受取云々但書ニ五十圓ハ切捨勘辨ト記載ア

ルヲ以テ主張ノ眞實ナルコトヲ證據立テマス

裁判長ハ是ヨリ尋問スル旨ヲ告ケ控訴人ニ問テ曰ク、、、、、

問

答

問

裁判長ハ被控訴人ニ向テ問フ

答

問

答

裁判長ハ被控訴人ニ向テ曰ク尋問ハ終リタルニヨリ立証ノ結果ニ付辨論ヲ爲ス可

シ

被控訴人曰ク被控訴人ガ受取書ハ明治十八年三月三十日トアレモ明治十八年ノ

五字ト但書ノ文字ハ後ヨリ記入シタルモノト思フナリ即チ其筆跡墨色共異ナリ居

ルヲ其眞正ナラザルコト著明ナレバ該証ニ對シテハ反証ヲ舉グルニモ及バズ各裁判
官ハ之ヲ以テ眞正ノモノトシテ採用相成ラザルコト信シマス又若シ被控訴人ニ於
テ果シテ返金シタルモノナラバ勸解出願前ニ手紙ヲ以テ猶豫ヲ求ムル筈ナキコト
思ヒマス

裁判長ハ被控訴人ニ向テ曰ク立証ノ結果ニ付辨論ヲナス可シ

被控訴人曰ク控訴人ガ差出シタル手紙ハ全ク不意ノ催促ヲ受ケタルヨリ返金

シタルコトヲ遺忘シタルモノデゴザリマス其後篤ト考ヘマスレバ儘ニ返シタリトノ

記臆ナルヲ以テ証文入レテ搜索シタルハ果シテ受取書ヲ見出シタル次第ナレバ該

書簡ハ錯誤ニ係ルモノデゴザリマス又被控訴人ノ受取書ハ決シテ後ヨリ記入シタ

ルモノニアラザルコトハ同筆墨色ナリ、、、、

裁判長ハ辨論ヲ終結シタルヲ以テ即日又次ノ日判決ス可キ旨ヲ告ゲ閉廷ス

明治二十年第一號控訴人某ヨリ被控訴人某ニ對スル地所取戻控訴事件ニ付明治二十

年一月四日拾時第一局長評定官某陪席評定官某々ハ書記某立會ニテ公廷ニ臨シ書記

ハ訴訟關係人ノ氏名ヲ呼立欄下ニ起立セシム本件ノ訊問ハ渾テ之ヲ公行ス

裁判長ハ明治二十年第一号地所取戻控訴事件ノ公判ニ取係ル旨ヲ訴訟關係人ニ告知

控訴人某被控訴人某ハ承知セシ旨ヲ答ヘタリ

控訴人ハ不服ナル始審ノ裁判ヲ取消サレ明治十年一月十日被控訴人ニ小作致サセタ

ハ耕地何町何反何歩返還スヘキ様判決アリタキ旨申立タリ
被控訴人ハ始審裁判ハ相當ナルヲ以テ之ヲ認可セラレ控訴ヲ却下セラレ度旨申立タ
リ
右一定申立ノ外左ノ諸件ヲ記載スル者トス

- 一 必要ノ陳述
 - 二 自認々諾拋棄及和解
 - 三 証人及鑑定人供述ノ全部
 - 四 檢証其他立証ノ結果
 - 五 調書ニ添付セザル判決々議及命令
 - 六 判決々議及命令ノ言渡シアリタルコト
- 但一定ノ申立ヨリ立証ノ結果迄ノ事項ハ書記之ヲ朗讀シ又ハ閱讀セシメ
本人承諾ノ有無ヲ調書ニ記載スベキ者トス

年月日

控訴院

書記 某

裁判長評定官 某

印 印

訴狀標準

控訴狀

控訴人住所身分職業

代○言○人○
アルキハ 氏 名

右代○言○人○住所身分

氏 名

被○控○訴○人○住所身分職業

氏 名

訴○訟○物○件

洋服代金請求ノ控訴
初審判決書ノ寫

裁判言渡書

其判決ニ對シ控訴ヲ爲スヲ掲グ

右初審ノ判決ハ不當ナルニ付キ全部ヲ取消シ相當ノ裁判ヲ受ケ度控訴仕候
不服ノ點及ビ其理由ヲ掲グ

初審裁判所ニ於テハ控訴人ヨリ被控訴人ヘ送付タル洋服ハ約定ノ如ク出來セザリシ
モノト認定シ之ヲ被控訴人ヘ領収セシメ其代金ヲ請取ラントノ控訴人ノ訟求ハ相立
タザルモノト判決セシハ不當ナルニ付服従スルヲ得ズ其理由ハ何々、々々、

新ナル事實及ビ立證方法ヲ提出スルキハ
本訴洋服ノ如キハ固ヨリ裁ヲ損シタルモノニ非ザル故若シ被控訴人が着用シテ申分
アラバ其箇所ヲ縫直シ得ラルベキモノナリ其舉證ハ同職ノ者ヲシテ鑑定セシメラレ
ントヲ請求ス
一定ノ申立ヲ掲グ

前數項ノ譯チルガ故被控訴人ヲ喚出サレ原裁判ヲ取消シ控訴人ガ訟求ノ如ク洋服代

金百五拾圓ヲ被控訴人ヨリ支拂而シテ洋服二通りヲ被控訴人方ヘ引取り且始審終審
ノ訴訟入費ヲ被控訴人ニ於テ擔當スベキ様裁判相成リ度此段奉請願候
年月日
何區何町何番地
氏名

大阪控訴院長 何々殿

答辨書標準

答辨書

控訴人住所身分職業
氏名

右代理人住所身分
氏名

被控訴人住所身分職業
氏名

若シ代人アルキハ

右代人住所身分職業
氏名

訴訟物件

洋服代金請求ノ控訴ニ對スル答
申立ノ事項

初審ノ裁判ハ相當ニシテ被控訴人ハ固ヨリ控訴人ノ請求ニ應ズベキ義務無之候其事
實ハ初審裁判所ニ於テ申立テタル如ク云々

新事實及ビ新立證アレハ

控訴人ノ仕立タル洋服ノ被控訴人ノ身体ニ適合セザルコトハ上着ニ懸ノ生ズルヲ以テ
著明ナリ其舉證ハ現品ノ檢證アラソコトヲ請求仕候

右ノ理由アルヲ以テ原裁判ヲ全部認可相成リ且訴訟入費ヲ控訴人ヨリ賞却スベキ様
命セラレ度此段御答申上候

年月日

何區何町何番地

氏名

大阪控訴院民事何局長

評定官何々殿

口演

各位益々御多祥奉欣賀候弊店儀大阪控訴院訴訟人諸君ノ御旅宿
ヲ營業仕ル事茲ニ十有余年ノ久シキ日一日ト繁盛ヲ相極メ候ハ
之レ全ク諸君ノ御愛顧ノ厚キニ因ルト奉感佩候故ニ弊店何カヲ
訴訟人諸君ノ御便宜ヲ斗ル事ニ日夜注意致シ居リ候然ルニ右ニ
瞻寫セル如ク今般控訴手續ヲ御改正ニ相成候ニ付キ聊カ訴客諸
君ノ御注意ノタメ且ツハ御愛顧ノ萬一ニ報ズルタメ進呈仕候也

明治二十一年五月十四日印刷

大阪府西區土佐堀四丁目三番地

但大阪控訴院西隣角

木村又藏

大阪府西區土佐堀四丁目三番地
平民

木村又藏

發行人並ニ印刷人

全府全所十六番戸平民

木村正兵衛

明治二十一年五月廿四日御届
十八日抄

編輯人

十三

